

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 7 月 9 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (7/9 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m ³ /h	28.7	106.2 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m ³ /h	40.3	7.15 kPa g	A系： 0.08 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.6 m ³ /h	39.1	0.20 kPa g	A系： 0.10 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.11 vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (7/9 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	28.5
2号機	循環冷却システム	運転中	28.2
3号機	循環冷却システム	停止中	26.5 *
4号機	循環冷却システム	運転中	31

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

* 3号機使用済燃料プール水温度については、冷却系が停止中のため、7/8 5:00 時点の温度を記載。

[3号機]・H25/7/8 6:47 ~ 使用済燃料プール代替冷却系について、計器点検作業を行うため停止。

なお、冷却停止時の使用済燃料プール水温度は 26.6 。7/12 まで停止予定(約 101 時間)。冷却系停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.137 /h で、停止中のプール水温上昇は約 14 であることから、運転上の制限値 65 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題ない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	7/2 10:08 ~ 7/9 10:08 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	7/7 10:05 ~ 7/9 10:28 移送実施

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

*原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (7/9 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	運転中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備 (ALPS) の3系統 (A ~ C) のうち A 系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験 (ホット試験) を開始。

・H25/6/13 9:49 ~ 多核種除去設備 (ALPS) の3系統 (A ~ C) のうち B 系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験 (ホット試験) を開始。

・H25/6/15 23:00 頃 多核種除去設備 (ALPS) A 系統 (水処理設備で処理した廃液を用いた試験運転) のバッチ処理タンク (2A) において、当社社員が結露状況を確認した際に、当該タンク下の漏れ水受けパン内に、変色 (茶色) した水の滴下跡があることを発見。6/18、当該タンクの水抜きを行ったうえで、タンク下部の外表面調査における浸透探傷検査の結果、変色が確認された溶接線に2箇所 (ピンホール) を確認。その後、内面に入り詳細調査を実施した結果、原因はすき間環境等に起因するステンレス鋼の局部腐食による欠陥であり、すき間腐食が進行したことにより貫通に至ったと推定。6/20、バッチ処理タンク (2A) と同様の構造のバッチ処理タンク (1A) について、変色滴下水の跡は見られなかったものの、浸透探傷検査を実施した結果、タンク表面の1箇所に液体のにじみがあることを確認。2Aタンク同様タンク内表面にわずかに残存した液体が浸み出てきたものと推定しており、1Aタンクにも2Aタンクと同様のピンホールがあるものと考えている。その後、1Aタンクの詳細調査を行った結果、2Aタンクと同様に、すき間環境等に起因する典型的なステンレス鋼の局部腐食による欠陥であり、すき間腐食が進行した結果、貫通に至ったと評価。当該箇所については、今後補修を実施予定。

< 5. その他 >

・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/7/4 13:05 6号機北側の雑固体廃棄物焼却建屋の建設エリアにおいて、25tクレーン車から油が漏れいしていることを協力企業作業員が発見。漏れいは養生鉄板上に約1m×約1mの範囲で継続しており、吸着マットにて処置。なお、同日 13:19、富岡消防署に連絡。その後、同日 13:38 頃、当社社員が現場に到着し、同日 13:43 頃、漏れい範囲が約2m×約1m、厚さ約1mmであることを確認。現在、約10秒に1滴程度の滴下になっており、バケツで受けている状況。なお、消防署からは当該油漏れについては、危険物の漏れい事象と判断。当該の漏れいについては、漏れい箇所がシリンダーボックス部であったことから、7/5 にシリンダーボックス部の油圧ホースの切り離しを実施。なお、7/8 までに漏れいがないことを確認。今後、シリンダーボックス部の修理を実施予定。

・H25/7/7 ~ 港湾口について、港湾内の魚類の移動防止対策として、H25/2/8 より底刺し網を設置 (5/9 より底刺し網二重化) しているが、当該の底刺し網は、船舶の運航に伴い、網の開閉を実施することがあることから、恒久的な魚の移動防止対策として、ブロックフェンスを設置する作業を開始。

・H25/7/8 ~ 2号機 TIP (移動式炉内計装系) 案内管の健全性確認を実施中。

・H25/7/9 10:25 ~ 1号機サプレッションチェンバ内残留水素の排出、およびサプレッションチェンバ内の水の放射線分解による影響を確認するため、サプレッションチェンバ内への窒素ガス封入を再開。

・H25/7/10 ~ 11 発電所敷地内の空間線量率を測定しているモニタリングポスト について、周辺に遮へい壁を設置し線量低減を図っていたが、遮へい壁外側の空間線量率が低減したことから、遮へい壁を撤去予定。

【タービン建屋東側の地下水調査状況について】

・1～4号機タービン建屋東側に観測孔を設置し採取した地下水を分析したところ、1,2号機間の観測孔 No.1 において、トリチウムおよびストロンチウムが高い値で検出。今後も引き続き採取分析を行い、監視強化を実施。

トリチウム: $4.6 \times 10^5 \sim 5.0 \times 10^5$ Bq/L (採取日: 5/24, 5/31, 6/7)

ストロンチウム 90: 1×10^3 Bq/L (採取日: 5/24)

・7/5 に採取した地下水観測孔 No.1-1, No.1-2の水について、トリチウムの分析を実施。分析の結果、地下水観測孔 No.1-1 について、600,000Bq/Lと過去最大値(7/1 採取分: 510,000Bq/L)よりも高い値が検出された。

また、地下水観測孔 No.1-2 (地下水観測孔 No.1の南側)の測定結果については、380,000Bq/Lであり、近傍にある地下水観測孔 No.1-1の測定結果と比較して低い値となっている。

・7/8 に採取した地下水観測孔 No.1-1, No.1-2, No.2の水について、ガンマ核種、全ベータの分析を実施。分析の結果、地下水観測孔 No.1-2 について、セシウム 134 が 9,000Bq/L、セシウム 137 が 18,000Bq/Lと過去最大値(7/5 採取分: セシウム 134 が 99Bq/L、セシウム 137 が 210Bq/L)よりも高い値が検出された。また、地下水観測孔 No.2の測定結果については、全ベータが 1,700Bq/Lと過去最大値(7/1 採取分: 260Bq/L)よりも高い値が検出された。その他の結果については、前回(No.1,2: 7/4 採取, No.1-1,1-2: 7/5 採取)と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

< 拡散防止対策 >

7/9 地下貯水槽 No.1～3の漏えい検知孔内に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。
地下貯水槽 No.2 のドレン孔に漏えいした水を当該地下貯水槽内へ戻す処置を実施。

6/19～7月上旬(予定) 地下貯水槽 No.1 検知孔水(北東側)の全ベータ放射能濃度の低下が緩やかであることから、地下貯水槽 No.1に淡水化装置(RO)処理水(全ベータ放射能濃度: 約 1×10^1 Bq/cm³) またはろ過水を移送し希釈する処置を実施(地下貯水槽 No.1内残水の全ベータ放射能濃度: 6.6×10^4 Bq/cm³)。

最新の希釈作業実績: 7/5 約 40m³ のろ過水を注水。

6/27～ 地下貯水槽 No.2 検知孔水(北東側)の全ベータ放射能濃度の低下が緩やかであることから、地下貯水槽 No.2にろ過水を移送し希釈する処置を実施。

最新の希釈作業実績: 7/8 約 40m³ の淡水化装置(RO)処理水を注水。

< サンプルング実績 >

7/8 地下貯水槽 No.1～7のドレン孔水(14箇所)、地下貯水槽 No.1～4, 6の漏えい検知孔水(10箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22箇所)についてサンプルングを実施。分析結果については、前回実施したサンプルングの分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上